



西南学院大学・

図書館報

No. 71

昭和52年2月17日発行

福岡市西区西新6丁目

西南学院大学図書館



日に新(あらた)に

文学部教授 滝 沢 寿 一

毎日大小となく一つの発見、一つの開眼が私の胸をときめかせ、私の心を和ませる。たとえば大袈裟にきこえようが、勿論凡夫有情のこの身、大したなかみのあろう筈がない。若い頃思想に拘執していた時分にはベシミズムが私を領していたが六十才を過ぎると子供に還るのかめったに悲観しなくなり、何にでも興味を抱き、すぐ感心し、他愛もないものに不思議な條理や美しさを見つけては魅せられてしまうのである。日日是好日、いや小人閑居という境地なのであろう。歌がきこえてくる、耳を澄ますと

今はもう秋、誰もいない海
知らん顔して人がゆきすぎても
わたしは忘れない
海に約束したから
つらくてもつらくても
死にはしないと

という第一節。山口洋子作詞、内藤洋美作曲という。海は死のイメージに繋がるかと思うと、生のイメージにも組するんだな、そこが気に入る。こんな程度の発見なのである。

もう少しましな？話をすると、「思ひ河」(……絶えず流るる水のあはのうたかた人にあはで消えぬや「詠歌大概」)とか「忘れ水」(夕まぐれ鳴立つ沢の……思ひいづとも袖は濡れなむ「後鳥羽院御口伝」)とかいった修辞をみつけただけで浮き浮きしてくる。早朝散策の折ふと、雪紐(路面に巻きひろげられた雪の細い帯)や雪まくり(斜めの鉄線などに巻き絡む雪の紐)を目撃した時などは、一日中幸福になる。更にもう一段高尚になると、商売柄又もや表現にこだわることになるが、「英国人は *imagination* という言葉をあらゆる文化的なものの根底にひそむ原動力として把え

ている」という或英文学者の指摘を読んだ瞬間電光を浴びたような感銘をうけ、早速名にし負う *Times Literary Supplement* の1959年秋の特別号 *The American Imagination* 同じく1960年9月9日の附録 *The British Imagination* を借りうけて読み、ひと月くらい堪能したことがある。想像力が、ドイツ、フランスなどの諸外国とちがって詩人や芸術家に限定されず、普遍的な根源力としてうけとめられている所が英国風だなと恐れ入ったわけである。下世話に戻ると、今でもやりかねないが、黄金分割の魔法に呪縛されて、目にふれる美しい形という形に $a:b = (a+b):a$ をあてがい、三菱 *Gallant* のサイド・ミラーにまで及んだ数年前、一日松山市に遊び、御坂峠の山峡から市の全景を眺望した時、お城のテレビ塔を中軸に左右に配分された山なみの間隔はまさに黄金截を示していたから堪らない。この温泉町を去るまで、私は蟬のようににはしゃいだ。

最後に、(気がついてみるとこのお喋りどうやら実質ことばへの関心に終始したみたいなので駄洒落にもならないが)、「はじめに言葉ありき」というヨハネ福音書冒頭の句の意味が最近、それも旧ろうはじめて解ったと書いたら人はほんとにしないかもしれない。だが、まじめな話である。こんな訳文(といっても欽定聖書の逐語訳だが)では素人には解る筈がない、「創造の始原から神の知恵が存在していた、その知恵の体現者がキリストだ」とでも改めれば原意に近ずこう、ざっとこんなことを皮肉のオブラートに包みながら教えて下さったのは山本七平氏(「翻訳は神学である」翻訳の世界 昭52,1月号所収)である。この分だと、今年も、年じゅう至る所に良き師良き友が見出せそうだ。

参考図書紹介 その④

書 評 誌 (紙)

参 考 係

最近日本においても書評に関心をもち、各新聞とも週一回特集号を発行しているものが多くなりました。

書評は、短いとその図書の内容を簡潔に、的確に批評・評価しているので、図書を見なくても内容が理解できる。図書の評価をするのに適当で、購入時の参考にもなる。

これらの書評は、普通、雑誌・新聞に載るのが一般的で、新聞では上記のごとく週一回特集号を出している。雑誌では、書評専門の雑誌(書評誌)のほか各雑誌についても書評欄とか、Book Review として関係の新刊書の紹介をしている。

ここでは主に専門の書評誌(紙)にはどんなものがあるかを紹介します。しかし残念ながらわが国においてはこの種の専門誌(紙)は少いので、主に外国のものを取り上げます。以下、書評誌(紙)名あとの年または巻は本館所蔵分を示す。

(1) 主要専門書評誌(紙)

1) イギリス

1. Times Literary Supplement (T. L. S.) 1902~

Times の木曜版の文芸付録。

英語で書かれた書評紙としては、世界最高水準で、他の追随をゆるさないとされている(後述の New York Review of Books は例外)。年間の累積索引、著者、書名別がある。

2. Books and Bookmen Vol. 15 (1970)~

相互に関連のある本を数冊取り上げそれに関する書評は、長いものから短いものまでを含む。英国の雑誌の書評誌としては、代表的なもの。

Book Review Digest, 1968

LINKLATER, ERIC. Scotland; introd. by Eric Linklater; phot. by Edwin Smith; notes on the plates by Olive Cook. (Studio bk) 224p \$12.50 Viking

914.1 Scotland—Description and travel

68-19326
This pictorial history is presented in four parts. "Edinburgh and Glasgow form Part I; Part II covers the Lowlands and Part III Central Scotland. The Highlands and the Islands are . . . pictured and described in Part IV."

(Library J)
Reviewed by Phoebe Adams
Atlantic 222:134 S '68 20w
"The photographs show variety in landscapes and buildings and, while color pictures are few, the photogravures are exquisitely done. The country . . . has never been presented so beautifully and completely in so small a way. In so short a 'history' there is much omitted but the chosen words will send the interested reader on to fuller works. Younger readers will find this stimulating history. Collections, generally, will buy it." K. T. Willis
Library J 93:3135 S 15 '68 130w

Reviewed by Caskie Stinnett
N Y Times Bk R p99 D 1 '68 70w

"Linklater's introduction is truly an introduction to Scotland, but he makes no effort to be comprehensive. . . . [The photographs] are always satisfactory and sometimes superb. There are four maps scattered through the text, but a single endpaper map would have been more useful."

New Yorker 44:120 Ag 24 '68 210w

"With Scotland it is possible to achieve portraiture in some depth with 134 plates and a skillful commentary. . . . [Regions] through which the traveller too often hurries . . . are given their due. . . . But of modern Scotland, apart from the new Forth Bridge, there is little. One may lament too, without detracting from the excellence of the book, the concentration on landscape and architecture. . . . This portraiture is of an uninhabited land. After all, Queen Victoria herself remarked, when travelling in the Highlands one frequently meets with the Highlanders."

TLS p947 S 5 '68 280w

2) アメリカ

1. New York Times Book Review 1957~

New York Times の日曜版の付録。

20~30の図書についてのかかなり長い書評と同数以上の図書についての短いコメントからなる。

2. New York Review of Books Vol. 21 (1974)~

最も多くのアメリカの知識人に読まれている雑誌。米国内における雑誌の書評誌としては主要かつ最も重要なもの。

3) フランス

1. Bulletin Critique du Livres Francais 1967~

選択書誌と言われているものですが、特定の観点に立って、著作が成功しているかどうか、その価値を比較・評価した結果として与えられる批判的注解があるので、書評誌としても利用できる。

4) ドイツ

ドイツ語のもので代表的なものが、Bibliographie der Rezensionen である。これはドイツ語で出された図書だけでなく、各国語の図書の書評が検索できる包括的なもの。第2次世界大戦後は刊行されていない。(本館所蔵せず)

(2) 主要専門書評索引誌

1. 書評年報(書評年報刊行会) 1970~

人文・社会・自然編
文学・芸術・児童編} 各年がこの2編に分かれている

主要新聞、雑誌85誌紙に掲載された書評の図書名、評者名、掲載誌紙名などを、著者名別に集録している。人名索引がある。

2. Book Review Digest 1962~'68, 1976~

英米の一般の雑誌、書評誌紙にあらわれたアメリカ出版の一般図書の書評索引である。この種のものとしては、最も代表的なものである。月刊であるが年間、5年間の累積版もでる。その梗概、書評の抜粋があり、書評の詳しいは、語数表示によって見当をつけることができる。またある著者が1960年頃出した本があるかどうか、出版社はどこだったかなど書誌の事項の調査にも役立つ貴重なレファレンスブックです。 その一例を抜粋します。

図書館の将来計画

— 館内模様がえ —

杉 本 善 夫

昭和50年9月に積層書庫が完成し、今まで5階においていた閉架図書をここに移動させたので、それに伴って種々の改善策が考えられていましたが、昨年11月、「図書館施設利用計画」が図書館委員会によって策定され、この中の「短期計画」に従って、目下作業を進めています。

まず短期計画の内容を列記してみますと、

5階および積層書庫第7層

主として教員および院生用の施設とし、新着新聞雑誌室、雑誌・論集用書庫、教授閲覧室（辞書・新着論集備付）、教授用個室、談話室、特殊目的用コーナー〔判・法令センター（仮称）〕を設ける。

4階

会議室兼共同研究室、院生用個室貸タイプ室、官報・新聞縮刷版用書庫を設ける。

3階

現在の会議室兼視聴覚室を目録・参考図書室兼視聴覚室に転用する。

2階

一応現状通り。（但し、将来ロッカーを1階へ移設した場合には、そのあとを学生休憩室とする。）

1階

新聞書庫、作業室を設ける。

以上ようになりますが、現在完了している作業は前述の閉架図書の移動のみであります。

次に間もなく実施しようとしている作業は

1. 判・法令センター（仮称）

場所は今までとほぼ同じですが、書架を組み替え図書量もふやす予定です。

2. 論集・紀要類

5階大書庫の南側。大学名および誌名による配列の順序がABC順よりアイウエオ順に変わります。これはコンピューターによる「論集・紀要リスト」に合わせるためです。

3. 製本済和雑誌

5階大書庫の北側へ。

4. 新着雑誌

今まで教授閲覧室や5階ロビーにおいていた分

を、雑誌架とも一括して従来の和雑誌室に移します。

これで院生諸君は自由に新着雑誌に接することが出来るようになります。

5. 教授閲覧室

部屋は同じですが、前述のように新着雑誌をはずし、また応接セット等を5階のロビーに移設し、そのあとに書架をおき、各種碎書・新着論集等を揃える予定です。

以上のほか残った作業も順次実施していく予定です。

以上は学部学生諸君には直接の関係は比較的小さいのですが、

雑誌、論集等を整備していくことになりますから、3階の目録カードや各閲覧室に備え付けのコンピューターリスト等を参考にして、クローズの雑誌・論集等を今までよりも利用しやすくなります。大いに利用されるよう希望します。（本館司書 課長補佐）

館 内 案 内		
本 館	書	庫
和 雑 誌 論 集 判・法例 センター	新着雑誌 V	⑦ 洋 雑 誌
文・法	官 報 新 縮 刷 版 IV	⑥ 文 学
商・経	III	⑤ 商・経・法 (洋)
教 養	II	④ 商・経・法 (和)
学 習 室	I	③ 教 養(洋)
		② 教 養(和)
		① 国 連 寄 託 図 書 館

★ ニュース・News お知らせ・Information ★

＜第8回国連寄託図書館会議開催さる＞

昨年11月11・12日の両日、本学において開催された。全国の12の国連寄託図書館および関連機関から17名の参加者があり、熱心に討議された。また本学法学部伊藤不二男教授により「平和宮の図書館と国際法の父グロティウス」という題で講演が行なわれた。

＜外国法・判例集総合目録の編さん準備＞

東大の外国法文献センターの津野芳郎 助 教授が1昨年、総合目録編さんの準備のため本館の外国法・判例集を見下され、その資料は総合目録の協力館に値するということで、昨年の12月23・24日に再び来館され目録と現物の調査が行なわれた。

この結果は全国の総合目録が出来上がるまでは、九大、福大、西南大3校（九州はこの3校）の総合目録として3月下旬に発行される予定です。なお既に東大、国会図書館、京大、立命館大、同志社大の個別の目録が出来上がっています。

＜英国国立図書館貸出部（BLLD）の文献複写サービスの案内＞

このほど文部省とBLLDおよびBritish Councilとの協議の結果、在東京 British Council においてBLLDへの複写業務を代行してくれることになりました。

BLLDは、あらゆる言語によるあらゆる主題分野の重要な逐次刊行物を収集しているので、現在、世界中の国々から47,500タイトルの出版物を受取っており、逐次刊行物の所蔵タイトルは、120,000タイトルを超えています。更に加えて、BLの参考部門が所有する200,000タイトルの逐次刊行物と、英国内の主要図書館のCollectionもBLLDが利用できます。蔵書数は400万以上で、年間250万件を超える申込みを受付けており、申込みは通常48時間以内に処理されます。日本の場合、申込みから複写物が手許に届くまでおよそ16日かかります。（すべて航空便）申込みをされる方は、料金等詳しいことについては、参考係までおいで下さい。

＜図書館委員会報告＞

S.51.10.28

1. 図書館内の模様がえについて
2. 雑誌貸出禁止について
3. 52年度図書館予算申請について

S.51.12.2

1. 図書館内の模様がえについて（前回からの継続審議）
2. 波多野文庫配架場所について
3. 購入雑誌の学部間調整について

4. 雑誌貸出禁止について（前回からの継続審議）

＜研修・出張＞

- ・51年度福岡県・佐賀県大学図書館協議会
福岡地区第2回研究会 於：九州産業大学
S.51.10.29 今永係長・香川出席
” 第3回研究会 於：九州産業大学
S.51.12.4 府川出席
- ・51年度大学図書館職員講習会
S.51.11.8～13 於：東京大学 大塚出席
- ・私大図書館協会 51年度秋季西地区部会
S.51.11.12 於：大阪歯科大学 府川出席
- ・全国図書館大会 於：東京品川文化会館その他
S.51.11.26、27 刀根司書長出席

告知板

○春休中の開館予定

- ・2月21日（月）～4月9日（土）は開架閲覧室を開き、学習室は閉室します。
（但、9:00～17:00、土曜は12:00まで）
- ・2月9日～12日は入学試験のため、休館
- ・3月11日～18日は在庫調査のため、学習室のみ開室します。（返却は受け付けます）

○春休長期貸出

- ・1月31日（月）～4月22日（金）
（但し、卒業予定者は2月末日まで）
- | | | |
|----|---|------------|
| 冊数 | { | 学部学生……5冊以内 |
| | { | 別科生……10冊以内 |

○卒業後の図書館利用手続き

本学卒業生は、社会に出てからも職務上の研究・調査など、あるいは自己の教養・知識向上のため本学図書館を利用することができます。利用希望者は、特別利用者規則に従って、ご利用ください。

特別利用者証発行については次のものを提出しなければなりません。

- | | |
|-----------------|------|
| ① 特別利用許可願（本館備付） | 1通 |
| ② 卒業証明書 | 1通 |
| ③ 証明書用写真（3×4cm） | 1葉 |
| ④ 印鑑 | |
| ⑤ 手続料金（1カ月） | 100円 |

※ 入館、貸出等の手続きは在学中と変わりませんが、貸出冊数3冊、期間は11日以内です。